

2020年5月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第80回

＜自己啓発がもたらす持続可能な経営＞

人は組織において他者と連携しながら仕事を進め、お互いに影響を及ぼし合う有機的なつながりを持ちます。組織力が向上するためには、仕事に臨む姿勢を時代の変化と共に変容し、組織を構成する人財がそれぞれ自己啓発を進めて行かねばなりません。自己啓発に無頓着な人は成長が困難になり、組織にただ属するだけの人在（じんざい）や、連携すべき他の人の足を引っ張る人罪（じんざい）になってしまう可能性が高くなります。

多くの企業では経営理念やビジョンに基づいて中長期経営計画や年度計画を定め、組織毎の具体的な行動計画と共に個人的には日常のPDCAサイクルが回っていきます。この行動計画の基軸となる利益目標ですが、この利益を長期に渡り持続して獲得していくためには組織や個人が顧客価値（顧客が代金を支払ってくれる価値）の変化に対応し続けることが前提となります。

ところがビジネスの現場では顧客（市場）のニーズ変化が加速度的に速くなり、今迄よりも更にスピーディな判断力や実践力が求められてきています。コミュニケーションの円滑な進め方や、それぞれの人が担う専門的な技術の向上、奥の深い人間修養なども含めるとやるべきことはあまりにも多く、その時間を日常の時間帯で確保することは容易ではありません。

現在、新型コロナウイルス対策で在宅勤務を取り入れている企業が多くなり、今まで以上に自主・自律の行動が求められ、働き方を改革すべき時に直面しています。通勤時間や移動時間などで浮く時間をうまく活用すれば自己啓発促進の機会になりますし、危機感を世界レベルで共有出来ているこの時にこそ未来を拓く価値ある働き方を推進し、あるべき姿としての「持続可能な経営」を創造していききたいものです。

＜社会を生産的にする＞

一人ひとりの自己啓発は、組織の発展にとって重要な意味を持つ。それは組織が成果をあげるための道である。成果を目指して働くとき、人は組織全体の成果水準を高める。自らと他の人たちの成果水準を高める。

こうして一人ひとりの成果をあげる能力は、現代社会を経済的に生産的なものにし、社会的に発展しうるものにする。

― 出典：「プロフェッショナルの原点」P.F. ドラッカー、

ジョゼフ・A・マチャレロ共著 上田惇生訳―